

八幡坂の歩み



長崎県立佐世保北中学校・高等学校
長崎県佐世保市八幡町6番31号

TEL 0956-22-4105/FAX 0956-22-5361

URL <http://www.news.ed.jp/sasebokita-h/>

第4号 令和5年9月21日発行

「人生は敗者復活戦」

高校教頭 阿比留 憲一

第105回全国高等学校野球選手権記念大会は令和5年8月6日（日）から23日（水）まで阪神甲子園球場で開催され、慶応義塾高校が、昨夏東北勢として初優勝し史上7校目の連覇を狙った仙台育英高校を8-2で破り、第2回大会以来107年ぶり2度目の優勝を果たしました。勝利至上主義や、指導者の指示は絶対という風潮が当たり前だった時代もありましたが、「エンジョイベースボール」をモットーに、プレーだけでなく、発言、考え、頭髪など個性を尊重したものであったように私には映りました。

全国で3486校が参加した大会でしたが、慶応義塾高校だけ一度も負けることなく、頂点に立ったことになりましたが、今回は決勝で惜しくも連覇を阻まれた仙台育英高校野球部の須江航監督にフォーカスをあてて、まとめてみました。

仙台育英高の情報科教諭で40歳。これまでの高校野球指導者と言えば「熱血と鬼指導」のイメージが強かったが、須江先生は明らかに一線を画す。原点は若き日の下積み生活にあり、仙台育英高時代は2年秋からグラウンド・マネージャー。3年時には記録員として甲子園のベンチ入りをしている。八戸大進学後も華々しい球歴はなく、学生コーチとして裏方の道を歩み、卒業後は仙台育英の系列中学の監督として指導者となった。こうした苦労の日々が結実して2017年、前任の佐々木順一朗監督の後任として同校高校の指揮を任されるのです。（本人は自身のことを「補欠の監督」と呼びます）

昨年、夏の甲子園で日本一になった後、「次は日本一のチームでなく、幸福度の高いチームをつくりたい」と話し、「連覇」という言葉は使わずに「二度目の初優勝」や「日本一からの招待」を合言葉にしていました。須江先生は「幸福なチーム」の「幸福」について「自分ですべきと考え実行できた上で、よい結果を残せること」と定義しています。ところがそれは野球だけの話にならないようにすることが最も重要であることを強調しています。

「野球だけに集中した方が、効率が良いという考えもあるかもしれないが、それは先の人生で最終的にうまくいかない。最終的に問われるのは人間としての総合力だと思う。野球のプレーも人間的な評価も多くの場合は、短所が長所を消してしまう。こんないいところがあるのに、これができないから台無しだよねということが多い。だから短所に対して、丁寧に対処していない人間はやはり評価されない。だから人生は野球だけではないのだから、野球だけやっていけばいいということにならない。やりたいことをやりたければ、やりたくないこともしっかり向き合う必要がある。スポーツの世界で天才と言われる選手でも、それ以外のことを疎かにして成功している例はまずない」と言っています。私もこの話を聞いて、自分自身に重ね合わせて、いろんなことを整理するよい機会になりました。

また、人が一番成長する時は、物事が思うようにうまくいかない時と言われます。一生懸命やればやるほど、その思いが強ければ強いほど、うまくいかないようなことってありませんか？誰だって、真剣にやればやるほど壁にぶち当たることが多くなるでしょう。須江先生も生徒たちには「挫折」（うまくいかないこと）があることを前提に人生を歩んでもらいたい、挫折のない人生なんておもしろくないという思考ができるようになってほしいと考えているそうです。私も同感です。挫折する（うまくいかない）ことで、立ち止まり、あらためて、自分自身と向き合い、自己分析を行い、自己理解をする。そうすることは短所に丁寧に対処することに繋がり、その結果、何かに気づき、そこから初めて工夫が生まれて、新しい引き出しを手に入れ、人間としての総合力が上がっていくのではないかと私は解釈しています。つまり「敗者復活戦」を重ねながら、人として成長していくということだと思えるようになってほしいのです。

8月26日付地元テレビ局でのインタビューで次のように話しています。「答えを何か1つに求める必要はなく、それぞれの中での正解を見つけていけばいいので、何かに必ず寄せていかなくではいけないものではない。ただ、そこで1つ大事なものは、生徒に主体性があるかどうかです。どういう活動とか、どんなものを大切にしているかということに対して、大人が決定権を持って何かを最終的に決めるのではなくて、大人がサポートしながら子供たち自身がそれを選択していくという形が大事だと思うのです。」まさに、今の教師に求められている、大学共通テストや探究活動へ向けても共通している大切なことです。教師として、保護者として心に響きました。

この文章を読んで、どう感じるかは人それぞれであり、正解は1つではありません。人生は敗者復活戦であるので、何回負けてもいい、何度失敗してもいいのです。その経験をする、その失敗と向き合うことが次の一歩に必要なものを教えてくれるのではないのでしょうか。「とりあえず、やってみる」をまた流行らせてください。

北辰祭（体育祭）

保健体育科

3日（日）は第75回体育祭が開催されました。今年の体育祭は、「体育祭実行委員会」を立ち上げ、できる限り生徒が運営を行っていくものに挑戦しました。初めての試みで、大変なことも多かったかもしれませんが、実行委員長の金子大希君（高3-1）を中心に、生徒のアイデアが数多く盛り込まれた体育祭だったように思います。準備段階から天候に恵まれたことも、このような生徒の挑戦があったからかもしれません。

特に、高校生活最後の体育祭となった3年生にとっては、思い出深い体育祭になったのではないのでしょうか。実行委員と各ブロックのリーダー陣の協力する姿が至る所で見受けられ、改めて佐北生の素晴らしさを実感した1日となりました。

今回挑戦した体育祭は新しい体育祭の第1歩です。次年度以降は、さらに発展した体育祭を下級生が創り上げてくれることを期待しています。



北辰祭（文化祭）

生徒会

9日（土）、10日（日）の2日間、文化祭が行われました。

文化祭実行委員が

「Re~reconsider, reborn, rediscover~」

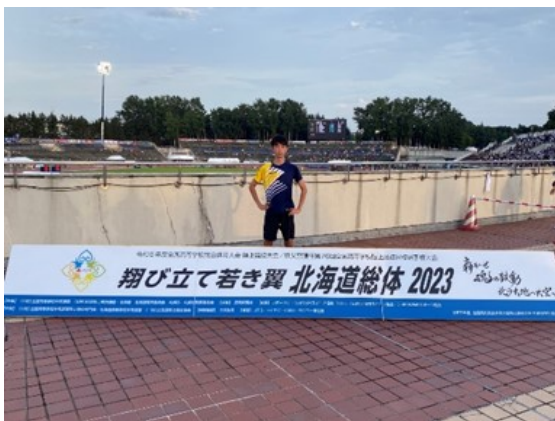
というテーマを考え、「コロナの制限が緩和されていく中で、今の自分たちにできることを何度も考え、文化の良さを再発見できるような、例年までとは一味違った文化祭にしたい」という思いのもと、さまざまな意見を出し合い作り上げていきました。工夫を凝らした文化部やクラスのステージや展示、みんなで盛り上がるようにとじっくりと練り上げた実行委員会の企画、そして文化祭全体を盛り上げる会場装飾など生徒みんなのさまざまな才能が存分に発揮された文化祭となりました。

また、4年ぶりの一般公開となった2日目には多くの方にご来場いただき、コロナ禍前の活気を取り戻した文化祭となりました。残暑厳しい中ご参観いただき、ありがとうございました。

高校インターハイ(陸上部)

陸上部顧問 横尾 尽志

8月2日から北海道で行われたインターハイの5000m競歩の部に、2年生の富田慧人さんが出場しました。初めての大舞台で緊張があったにも関わらず、堂々とした歩きで自己ベストに迫る記録を残しました。今年の経験をふまえ、来年は更なる記録向上と入賞を目指し、日々の練習に励んでほしいと思います。応援ありがとうございました。



中学校空手道部 県・九州中総体

中空手道顧問 小峰 一成

7月23日の県中総体に出場し、男子団体形で優勝、男子個人形で準優勝、女子個人組手で準優勝となりました。8月10日に鹿児島で行われた九州中総体では、台風の影響で予定より1日早く出発するなどのトラブルに見舞われましたが、男子団体形と男子個人形でROUND2進出、女子個人組手で2回戦進出となりました。日頃の練習の成果を発揮できた良い試合をすることができました。応援ありがとうございました。



中2 自然体験学習

学年主任 塩塚 拓

7月26日・27日に北中第19回生が自然体験学習に行ってきました。26日(水)は、松浦市で魚釣りや芋もち作り、また森林間伐や筏作りなど、それぞれの班が2つの活動を行いました。松浦市の方からご指導頂き、初めて行うものづくりや、自然との触れ合いに汗だくになりながらも笑顔で楽しむ姿が見られました。

27日(木)は、新上五島町へ向かいました。ほとんどの生徒がフェリー初乗船ということで、ワクワクした気持ちが表情からも伝わってきました。現地では、魚釣りや、透き通った海と真っ白な砂浜で大はしゃぎしたり、歴史ある教会を巡ったり、新上五島町を思い切り満喫して佐世保に戻りました。日焼けとともに絆も深めた2日間でした。



高校生夏季学習会

進路指導部 西平 祐治

高校1年生は7月24日(月)～26日(水)の3日間、高校3年生は7月31日(月)～8月4日(金)の5日間、佐世保市労働福祉センターで朝9時から夕方17時半頃まで、ひたすら自学に励みました。また、高校2年生も、高校1年生が学習会をした3日間の午後の時間に校内で自学会を行いました。「夏は受験の天王山」というように、高校3年生にとっては「待ったなしの夏」。5日間で出た質問数は400近くもあり、本気で必死に勉強する姿に受験生としての覚悟を感じ取ることができた学習会でした。



中学校3年生夏季学習会

進路指導部 吉田 真理子



7月26日(水)～28日(金)の3日間、中学3年生は校内で学習会を行いました。1～7校時まで、自学を中心としながら、学年所属の教員による講座も開講して、北中生としての学力の完成を図りました。初めは、生徒たちはこれほどまで長時間机に向かうことに慣れない様子でしたが、2日目には集中して黙々と学習に取り組む姿が見られました。高校1年生の先輩たちとの座談会もあり、半年後の高校進学に向けて、生徒たちの学習に対する意識をより一層高める良い機会となりました。

ようこそ佐北へ！

マシュー先生、ケイタ先生

今年度8月からいらっしゃったお二人のALTの先生方に、メッセージをいただきました！



Hello! My name is Matthew, and I am your new ALT for the next year. When I first arrived in Japan, I was very nervous. I did not know what to expect from my new home when I arrived. However, I didn't need to be worried. I have had such a warm welcome from all the teachers and students, and I feel very lucky to be at Sasebokita. I look forward to seeing you all in class!

Hello, my name is Kaethe Schroeder. I am from the United States. This is my first time coming to Japan, so I did not know what to expect. I was nervous to start teaching, but everyone at Sakita is so kind. I had so much fun at the Sports Festival and School festival. I can't wait to make new memories in Sasebo. I look forward to seeing you in Communications Class! Never give up!